

木下尚江 小説家、社会運動家。田中正造を支援し、非戦運動起こすなど、反権力で舌鋒振るうも、突然撤退した。

きのしたなおえ

戊辰戦争終・1869 = 信濃国松本で、松本藩足軽木下秀勝の子に生まれる。母はくみ。

明治6年政変 1873 = 4歳 :

初の民間工場 1875 = 6歳 : 妹が誕生。

三つの内乱・1876 = 7歳 : 父が巡査となり、北信へ単身勤務するなか、新築の開智学校に入学。

大久保暗殺・1878 = 9歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 11歳 : 明治天皇の松本通過を地元民が歓迎する様を見る。

明治14年政変 1881 = 12歳 : 松本中学校に入学。

自由民権運動の影響を受け、

内閣発足・ ・ 1885 = 16歳 : 飯田事件の被告を目撃して感動し、クロムウェルを崇拜して、国王裁く法律を学ぶことを決意、

帝国大学始・1886 = 17歳 : 長野県中学校松本支校となって、卒業。上京し、英吉利法律学校に入学し、東京専門学校法律科に転学。

国民之友始・1887 = 18歳 : 父が死去して、衝撃。

初の対等条約 1888 = 19歳 : 東京専門学校邦語法律科を卒業。帰郷し、{信陽日報}記者となる。

帝国憲法発布 1889 = 20歳 :

帝国議会始・1890 = 21歳 : 県庁移転問題で{信陽日報}が廃刊、_キリスト教に親しみ、友人と{安原徳義会}を組織し、

大津事件・ ・ 1891 = 22歳 : 禁酒・廃娯運動を始める。県治問題で{信濃毎日新聞}に寄稿し、「信濃富国論」を執筆。「余八如何にして基督教を信ずる二至りしか」を執筆。

大本教・ ・ ・ 1892 = 23歳 : 法律修行しながら、「万国之将来」を執筆。国家主義者の攻撃に自己弁解するキリスト教に義憤を覚え、

郡司千島探検 1893 = 24歳 : * 代理人試験に合格し、法律事務所開設。{信濃日報}主筆を兼ねる。改革すべく、受洗。

日清戦争始・1894 = 25歳 : 「革新論」で新聞紙条例違反。同志と{松本公友会}を始め、

日清戦争終・1895 = 26歳 : 遼東半島還付に反政府運動開始。

白馬会・ ・ ・ 1896 = 27歳 : 河川氾濫で実家の畑が荒地になる。

八幡製鉄始・1897 = 28歳 : 中村太八郎らと、_日本最初の普選運動を起こすも入獄。獄中で、蘇生体験。

子規句歌革新 1898 = 29歳 : 東京へ護送後、_無罪判決で、出獄。{毎日新聞}社長島田三郎を訪問後、帰郷。

Bushidou・ ・ 1899 = 30歳 : * 上京して、毎日新聞社に入社、平和主義・民主主義の論陣を張り、普通選挙期成同盟会結成。

ビアノ国産化・1900 = 31歳 : 結婚。_廃娯運動進め、足尾銅山鉅毒問題で現地視察、田中正造に会い、以後支援。社会主義協会に加入。

田中正造直訴 1901 = 32歳 : _同志と社会民主党結成、幹事となって届け出るも、禁止。続いて、社会平民党結成するも、即日禁止。

教科書疑獄・1902 = 33歳 : 衆議院選挙に立候補するも、落選。

日比谷公園・1903 = 34歳 : * 非戦運動を起こし、幸徳秋水・堺利彦らの平民社を助け、「幸徳の筆・木下の舌」といわれる。

日露戦争始・1904 = 35歳 : _{毎日新聞}に反戦小説「火の柱」を連載、続く「良人の自白」で社会主義文学の代表的作家となり、

日露戦争終・1905 = 36歳 : _平民社主筆同然となるが、衆議院補欠選挙でも落選し、平民社も解散すると、従来の自己に疑問を持ち、

満鉄発足・ ・ 1906 = 37歳 : * 母の死を契機に、諸運動から退き、伊香保山中に籠って「懺悔」を執筆、

韓国反日暴動 1907 = 38歳 : 純枝を養女に迎える。_谷中村強制破壊に立ち会って、一種の自然主義的傾向を強くし、それを視点とした

韓国併合・ ・ 1910 = 41歳 : 静坐法の岡田虎二郎に入門する一方、「火の柱」などほとんどの著作が発禁となり、「日蓮論」、

大逆事件判決 1911 = 42歳 : _「法然と親鸞」を著した後、筆を折って求道生活に専心するに至る。

明治天皇没・1912 = 43歳 :

大正政変・ ・ 1913 = 44歳 : 看病するも、田中正造が死去。男子誕生し、正造と名づける。

第一次大戦始 1914 = 45歳 :

民本主義・ ・ 1916 = 47歳 : 東京西ヶ原に新築した家に転居。

大暴落・ ・ ・ 1920 = 53歳 : 岡田虎二郎が急逝し、

原敬首相暗殺 1921 = 52歳 : 「岡田虎二郎先生写真帖」。「田中正造翁」。

関東大震災・1923 = 54歳 : 島田三郎が死去すると、

護憲三派圧勝 1924 = 55歳 : 「島田三郎全集」刊行に関与。

治安維持法・1925 = 56歳 : 田中正造伝記資料の整理に着手し、

共産党事件・1928 = 59歳 : 「田中正造之生涯」出版。旧著復刊が承諾され、「木下尚江著作集」が刊行始まる。

満州事変・ ・ 1931 = 62歳 :

五一五事件・1932 = 63歳 :

国際連盟脱退 1933 = 64歳 : 集中的に、思い出の人たちのエッセイを書くなど、_権力に立ち向かった人たちの顕彰につとめて、

帝人疑獄事件 1934 = 65歳 : 「神 人間 自由」。

二二六事件・1936 = 67歳 : 妻が重病となり、死去。

日中戦争始・1937 = 68歳 : _病臥し、胃癌で、没した。